

どんなかな？阪大工学部



特集記事

河崎 善一郎*

What's new the faculty of engineering in Osaka Univ.?

Key Words : Publicity Work by Radio Broadcasting

Taking Part in the Planning to Collaborate with Men & Women

1. はじめに

大阪大学工学部の提供していたラジオ番組があったのをご存知ですか？

正確に申し上げるとすれば単なる提供ではなく、「大阪大学工学部の広報委員会が番組の構成を担当、制作がラジオ放送会社である」というのが正確なところかも知れません。平成18年10月から平成19年の3月末までの放送でした。番組のタイトルは「どんなかな？阪大工学部」、朝日放送100.8kHzで大阪から、毎週月曜日午後9時～9時30分の間お送りしておりました。今日はそのラジオ番組について紹介申し上げたく思います。

2. 阪大工学部・広報委員会

三年前工学部広報委員会の委員長を仰せつかりました。そして、仰せつかった以上まじめにやろうと考えました。そのような考えに至ったのには、いくつかの理由があります。まずは、受験生の理系離れとも関係しての工学部の不人気。近年阪大工学部の入学試験倍率は、必ずしも芳しくはないのです。入学試験倍率が高いからといって、それが必ずしも大学の良否を示すものでないことは当然です。とは申せ、やはりある程度の倍率でないと、なかなか優秀

な学生さんを集めることができません。ですから広報活動で、大阪大学工学部の実態を、大学外の方々知って戴くことが、大学の評判に繋がり、強いては入学試験倍率上昇に貢献できるのではないかと考えたのです。次に、国立大学の行政法人化も、理由の一つです。行政法人化すれば、他の大学でも色々広報活動をしてくるに違いないだろうと考え、わが阪大も遅れを取ってはならないと結論したのです。最後にもう一つ、阪大工学部のブランドイメージをなんとしても上げたいという願望も忘れることができません。

「阪大工学部は既に高いブランドイメージを持っている！」と仰る方も少なくないでしょうが、果たしてそうでしょうか？

阪大工学部の研究業績だけを考えますと、近隣の国立大学に決してひけを取らないことは事実です。ただ、阪大クラスの大学では、研究業績の立派なことは当たり前で、それに加える何かがないと、なかなか高いブランドイメージを維持できないのではと考えています。その何かを、ちょっと気障な言い方ですが、大学を愛する心だと考えました。街の人々の学生に対する処しかたは、京都と大阪では随分と開きはあります。あまり良い例え話ではありませんが、一般的には次のようになります。

例えばコンパ等で学生が悪酔いをして、駅の構内で苦しんでいるとき、京都の街では

「学生はん。お酒飲み過ぎはったんや。無理したらあきまへんえ！」とやさしく接してもらえるでしょう。一方大阪の街では

「阪大生か！酒も飲めんに飲みすぎて！」と、つつい見下されてしまいがちなのです。この差、つまり京都では街の人々が大学を愛しているのに対し、大阪では優秀さで尊敬の念はあっても、愛はなかなか言うのが小生の長年にわたる理解だった



* Zen KAWASAKI

1949年1月生

大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士課程修了(1978年)

現在、大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻環境電磁工学領域、教授、工学博士、大気電気学

TEL : 06-6879-7690

FAX : 06-6879-7690

E-mail : zen@comm.eng.osaka-u.ac.jp

のです。それゆえ、広報活動を通して、一人でも多く「阪大を愛する大阪人を作りたい!」と考えたのです。

例を挙げれば理由や根拠は未だ未だ出てきそうですが、本題と離れていきそうですので、ここでひとまず話しを本題に戻すことにします。

3. 広報活動とプロモーションビデオ

一年目の広報活動は、プロモーションビデオの制作でした。以前からも工学部では、プロモーションビデオを作成してありました。一方広報委員会では活動の一環として、近畿圏の予備校や高校に出前講義を実施しており、そのプロモーションビデオを持参して披露するのが常でした。しかしながら何度かこの出前講義に赴き気付いたのは、ビデオが始まると寝てしまう受験生が何人も居ることでした。確かにビデオそのものは忠実に阪大工学部を紹介してはありましたが、率直に申し上げて退屈なのです。そこで、受験生諸君に決して迎合するという意味ではなく、彼等が眼を凝らしてみてくれるプロモーションビデオの制作できないものかと考えました。専門家であるTV番組制作会社に勤務する友人と相談しながら考えたのは、総花的ではなく、強制され嫌々やるのではなく、かつある程度ドラマ仕立てで楽しめるプロモーションビデオを目指すということでした。工学部の紹介といいますが、当時ありました25学科を万遍にとつつい考えてしまいそうなところを、ある程度不公平があってもそれは認め、紹介したいと意欲を持ってくださる5~6研究室を募ることとしたのです。当初不公平で苦情が殺到するのではと危惧したのですが、結局のところそれは杞憂に終わりました。具体的な内容は、ドラマ仕立てという事で、高校生が研究室を訪ねて行く形を取り、さすがに高校生役はプロのタレントさんを使うことにしました。構成含め、出来上がりまでにおおよそ4ヶ月、

「果たして出来は？」

と、当時中学一年生であった甥っ子に出来上がったばかりのプロモーションビデオを見てもらいました。上映時間15分程度、甥っ子は非常に興味深げに見つめておりましたので、まずは成功と安堵したのです。

4. きゃびきゃびキャンパス@ 阪大

プロモーションビデオの完成が迫ってきた頃、二年目には何をやるかと考えていた矢先の事です。巷では、ラジオ局の乗っ取り騒動が起こりました。それで

「ラジオというと古いイメージがあるけれど、逆に今回の騒動で注目度が上がったかな?」と考え、ラジオ番組の制作・放送の可能性を、懇意にしている友人の居るラジオ局と相談しました。相談というよりは、「研究室紹介と高校生・受験生からの投書を17文字で募り、言葉のキャッチボールをする、その手の番組を制作したい」と、ほとんど提案に近い形でした。ラジオ局も、この手の話は今まで全くない斬新な提案に近いと興味を示しました。ただ冒険するのも躊躇されたので、深夜1時30分から30分の枠があいたからそこでやろうという返事。阪大広報委員会としては深夜放送が受験生向きかと大いに悩んだ次第ですが、とりあえずやってみることにしました。放送局は、広報委員会のいう

「30分枠の前半15分を阪大工学部教授による研究室紹介、後半15分を高校生川柳」をベースに、阪大工学部の各種ランキングを加えての構成でどうかと提案してくれました。また、羽谷直子さんという若手女子アナウンサーを進行役にと推薦くださいました。ですから広報委員会の担うべき役割分担は、研究室紹介に登場して戴く教授の選出と、阪大工学部の各種ランキング調査をすることでした。ただ実際走り出して見ますと、毎週のねたであるランキング調査は結構骨の折れることが判りました。それでもとにかく乗りかかった舟と、予定の半年間(平成17年10月~平成18年3月)必死で調査に励みました。また深夜放送というのは、やはり受験生相手には少し無理のある時間帯というのが反省でした。それでも期待以上に高校生川柳への投書もあったようですし、一般新聞紙にも取り上げられ、注目度・話題性は充分であったと考えております。

5. どんなんかな? 阪大工学部

先にも書きましたように、受験生を対象とするにはあまりにも放送時間帯が遅いため、半年間番組を続けた効果は、無責任なようですが良く判りません。

くどいようですが、一般の新聞や学報などで紹介されたり全国八大学工学部長の意見公開などで取り上げられているようですから、話題性のあった事は事実だと信じております。正直広報委員会が中心になってやるネタ集めは、本音で「骨」が折れ、広報委員会としては、一応半年間での放送打ち止めと結論付けていました。

ところが昨年(2006年)八月の上旬だったと思います。朝日放送の担当者が来学され今年もラジオ番組を計画しませんかと勧誘されたのです。何度も述べましたように大学が作るラジオ番組ということで話題性が有ったことは事実ですから、放送局にとってもきっとインパクトのある企画だったのでしょう。ただこれも先に書きましたように、広報委員会としては中止を決めておりましたので

「番組のネタ集め結構大変やし、予算も考えてへんからやめる!」と、いわばすげなくお断りを致しました。ところが担当者は

「先生、今年はゴールデンタイムの枠ですよ。月曜日夜9時から30分!」というではありませんか。その一言で、小生も現金なものです、経費のことは全て忘れ

「えっ、月曜日夜9時からやて、よっしゃ判った。経費は何とかするから話進めてくれ!」と即断即決。考えてみれば計画性がないというか、いい加減というか、いつもこの性格で苦勞しておりますのに、全く懲りない奴だなと自責の念が絶えない有様です。冗談はともかく、そんなことから、この「どんなかな? 阪大工学部」の放送が決まったのですから、不思議な気がします。ただ放送局も、前年度よりは取り組みが真剣で、番組の進行役に高野あさおさんと仰るベテランアナウンサーを起用していただき、力の入れようが充分理解できるような気がしました。番組タイトルからお判り戴けるかとも思いますが、文字通り「阪大工学部がどんな風であるか?」を、一般の聴取者に、一般と言いましても受験生や親御さんを対象に、情報を提供する番組内容となっております。番組の構成は、前半15分が、工学研究科にあるおおよそ150の研究室から毎週教授の先生を一名ずつ、後半の15分は学生やOBの方々を毎週一組ずつスタジオにお招きし、高野あさおさんがインタビュー形式で色々聞き出して戴くという形を取っています。この番組について強調しておきたいこ

とが一つあります。それはこの番組構成は阪大工学部が朝日放送に丸投げして出来上がったものでないということです。それどころか工学部の広報委員会全メンバーの叡智(?)を結集して考え出したもので、番組前半の教授についてはともかく、後半の学生もしくはOBは広報委員会のメンバーが、つてを頼りに探したり、はたまた学生食堂でスカウトしたりと、本音で手作りの番組となっているのです。さすがにアナウンサーとディレクターは専門家に頼らざるを得ませんが、番組の企画・構成、登場ゲストの設定、それに番組への参加と、いわば阪大工学部構成員とそのOBの自作自演に近いもののご理解戴ければ先ず間違いはありません。おかげさまで、半年間の予定をつつがなくまっとうでき、今はホット安堵している状態です。最後に登場して下さった方々を以下に示し、ボランティアでラジオ局に出かけてくださった皆様に対し、この場をお借りして感謝の意を表しておきたいと思えます。最終回に出させて頂いた筆者自身も含め、ご協力本当にありがとうございました。

平成18年10月2日(Mon)

豊田 政男 大学院工学研究科長・工学部長

平成18年10月9日(Mon)

谷口 研二 教育研究評議員

西岡 絵美子 大学院生(地球総合工学専攻)

平成18年10月16日(Mon)

浅田 稔 教授(知能・機能創成工学専攻)

Nagarajan Vishwanath 大学院生(地球総合工学専攻・船舶海洋工学コース)

Deang Paroka 大学院生(地球総合工学専攻・船舶海洋工学コース)

牧 敦夫 大学院生(地球総合工学専攻・船舶海洋工学コース)

平成18年10月23日(Mon)

尾崎 雅則 教授(電気電子情報工学専攻)

中嶋 祥子 大学院生(生命先端工学専攻)

平野 美紀 大学院生(生命先端工学専攻)

平成18年10月30日(Mon)

木多 道宏 助教授(地球総合工学専攻)

中村 信夫 (株)ア・ソッカ 代表取締役

平成18年11月6日(Mon)

- 菅原 康弘 教授(精密科学・応用物理学専攻)
濱岡 美佳 船井電機開発技術本部研究開発部
電気系技術職
- Ng Wee Hia 大学院生(電気電子情報工学専攻)
灘香帆 大学院生(電気電子情報工学専攻)
- 平成18年11月13日(Mon)
鈴木 幸子 助手(環境・エネルギー工学専攻)
平成18年11月20日(Mon)
赤松 史光 助教授(機械工学専攻)
吉田 憲司 特任助教授(常勤)(機械工学専攻)
小河 素子 設計自営業
荒川 文子 大学院生(地球総合工学専攻)
待永 崇宏 大学院生(地球総合工学専攻)
- 平成18年11月27日(Mon)
福住 俊一 教授(生命先端工学専攻)
Jana Schwanitz 外国人招へい研究員(原子分子
イオン制御理工学センター)
August Wierling 外国人招へい研究員(原子分
子イオン制御理工学センター)
- 平成18年12月4日(Mon)
八木 哲也 教授(電気電子情報工学専攻)
塩谷 捨明 国際交流室長
李 時英 大学院生(生命先端工学専攻バイオテ
クノロジー英語特別コース)
Alvarez Kelly Patricia 大学院生(マテリアル生
産科学専攻)
- 平成18年12月11日(Mon)
小浦 久子 助教授(地球総合工学専攻)
Pongsuwan Wipawee 大学院生(生命先端工学
専攻バイオテクノロジー
英語特別コース)
川原 類 学部学生(応用自然工学科)
沖 佳子 事務補佐員(生命先端工学専攻)
- 平成18年12月18日(Mon)
遠藤 恭 助手(マテリアル生産科学専攻)
長尾 千瑛 大学院生(地球総合工学専攻)
前田 瑛美 大学院生(地球総合工学専攻)
- 平成18年12月25日(Mon)
河田 聡 教授(精密科学・応用物理学専攻)
井上 豪 学部学生(機械工学科・チーム
OFRACグループプロジェクト
リーダー)
高橋 良太 学部学生(機械工学科・チーム
- OFRACグループパワートレイン
班長)
- 平成19年1月1日(Mon)
桑畑 進 教授(応用化学専攻)
北村 将太郎 受験生(駿台予備学校)
鈴木 達也 受験生(駿台予備学校)
- 平成19年1月8日(Mon)
新田 保次 教授(地球総合工学専攻)
宇井 杏奈 大学院生(マテリアル生産科学専攻)
森岡 ころこ 大学院生(生命先端工学専攻)
鈴木 翠 学部学生(応用理工学科)
- 平成19年1月15日(Mon)
加賀 有津子 助教授(ビジネスエンジニアリ
ング専攻)
更家 悠介(サラヤ(株)代表取締役)
- 平成19年1月22日(Mon)
桑原 裕司 教授(精密科学・応用物理学専攻)
島野 真由美 大学院生(応用化学専攻)
仁科 裕美子 大学院生(応用化学専攻)
- 平成19年1月29日(Mon)
池 道彦 教授(環境・エネルギー工学専攻)
倉敷 哲生 助教授(ビジネスエンジニアリ
ング専攻・元応援団)
上條 貴文 学部学生(法学部法学科・応援団)
山田 諒介 学部学生(応用自然学科・応援団)
大谷 典子 学部学生(文学部人文学科・応援団)
- 平成19年2月5日(Mon)
伊瀬 敏史 教授(電気電子情報工学専攻)
小川 優里 大学院生(電気電子情報工学専攻)
山岸 由佳 大学院生(電気電子情報工学専攻)
宮越 貴史(大阪ガス社員)
- 平成19年2月12日(Mon)
中村 摩理子 特任講師(機械工学専攻)
赤井 恵 助手(精密科学・応用物理学専攻)
植村 隆文 大学院生(精密科学・応用物
理学専攻)
- 平成19年2月19日(Mon)
北山 研一 教授(電気電子情報工学専攻)
太田 恵美 学部学生(応用自然学科)
檜本 真衣 学部学生(応用自然学科)
- 平成19年2月26日(Mon)
菊池 武士 助手(機械工学専攻)
池上 俊郎 教授(京都市立芸術大学美術学部・

URBANGAUSS研究所主宰)

平成19年3月5日(Mon)

新田 直子 助手(電気電子情報工学専攻)

平成19年3月12日(Mon)

松尾 伸也 教授(マテリアル生産科学専攻)

松尾 貞美 夫人

布出 麻衣 学部学生(電子情報工学科)

濱 恵美子 学部学生(電子情報工学科)

山口 麗 学部学生(電子情報工学科)

松井 香純 学部学生(電子情報工学科)

平成19年3月19日(Mon)

今中 信人 教授(応用化学専攻)

藤原 康文 男女共同参画WG主査

宇山 浩 男女共同参画WG委員

平成19年3月26日(Mon)

藤田 喜久雄 教授(機械工学専攻)

河崎 善一郎 広報委員会委員長

6. おわりに

「どんなかな? 阪大工学部」の半年間にわたる放送が無事終わりました。プロ野球のシーズン中はとても番組枠を戴くことは出来ませんが、シーズンオフにはまた装いも新たに考え、現在英気を養っているところです。過去二年間、10月から3月の放送で、大学側のノウハウもそれなりに蓄積でき、今年度も是非と考えております。ありがたいことに阪大内の他学部からも賛同のお声戴いておりますので、番組を発展的に解消して、阪大・理系の枠組みで実施できるかもしれません。とはいえ大威張りで、「阪大を愛する人が増えた!」と報告できる自信はありませんが、この問題は息長く努力していくしか方法がないのではとの印象も持っています。そして、今年秋の再開時のセールスポイントは、男女共同参画かななんぞと、夢を広げております。

